令和６年度　杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	２１３	学校名	仙台市立長町中学校	校長名	遠藤　克宏

１　取組のタイトル，テーマ

『自然の環境・人の環境の変化を察知できる人になる』

２　取組の紹介

（1）残食を減らそうキャンペーン

本校では，一食ではなく一品に絞って全校生徒が残食を減らす取組をしています。今年度も十数回にわたって開催され，一品をすべて食べきったクラスには給食委員からシールが渡され，そのシールの数が多いクラスは表彰されます。大規模校だからこそ一人でも多く食べきれば食品廃棄物の焼却量を大きく減らすことができ，二酸化炭素の排出を抑えられます。（目標 13）

（2）花植えボランティア

6，11 月には，生徒たちによるボランティアを集めて鹿野公園の花壇に花を植えました。今年度は全学年で 80 名近くの参加希望があり，2・3 年生のみに制限することもありました。とあるクラスでは全体の約 1/2 が参加していました。地域の方から丁寧に教わりながら作業を行い，自分たちにとって身近な鹿野公園の自然の豊かさを考えることができる貴重な機会でした。（目標 15）

（3）ペーパーレス化

本校は全学年各 8 クラス以上あるため紙の消費量も多くなりやすいですが，先生や生徒がクロームブックを使う頻度がより増えるようになってきたことで，授業で紙を使用しない場面も多くなりました。例えば単元ごとのレポート作成を Google ドキュメント上で行ったり，ロイロノートをワークシートとして活用して課題に取り組んだりしました。紙を無くす心配が減り，短時間で多くの言葉を打ち込めるのがメリットだと感じている人は多いです。また，生徒に読んでほしい資料などをクラスルームにアップすることで，担当クラス分すべて印刷する手間を省くことができました。必要最低限の紙の使用により，つくる責任，つかう責任を意識することができます。（目標 12）

（4）貧困をテーマにした授業

1 年生の授業ではアフリカ州の分野で「貧困」について取り上げました。カカオ農園で働く兄弟の映像を見たり，貧困から抜け出せない最大の理由は何かについてランキング化して考えたりしました。今すぐに現地へ行って助けることは難しいですが，映像や資料からアフリカの現状を学びじっくりと向き合うことで将来の行動につながる可能性を見いだすことができているといえます（目標 1）

３　取組の成果（児童生徒の変容）

このように，本校ではエコ・スクール本来の意味である環境負荷の低減や自然との共生を意識し，自然環境だけでなく人を取り巻く環境の面にも目を向けて，行動につながる意識的な部分の育成に力を入れました。ほんの少しの自分の行動が周りの人に影響を与えることを理解し，近くの誰かが行動しているから私もやってみる，考えてみるという生徒の様子がよく見られました。